

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公表番号】特表2001-505144(P2001-505144A)

【公表日】平成13年4月17日(2001.4.17)

【出願番号】特願平10-515102

【国際特許分類第7版】

B 2 9 B 7/82

B 2 9 B 9/06

B 2 9 B 9/10

【F I】

B 2 9 B 7/82

B 2 9 B 9/06

B 2 9 B 9/10

【手続補正書】

【提出日】平成16年8月30日(2004.8.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年8月30日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第515102号

2. 補正をする者

名称 ビューラー・アクチエンゲゼルシャフト

3. 代理人

住所 東京都港区虎ノ門二丁目8番1号

(虎の門電気ビル)

電話 03(3502)1476(代)

氏名 弁理士 (6955) 江崎 光史



4. 補正対象書類名

請求の範囲

5. 補正対象項目名

(1) 請求の範囲

6. 補正の内容

(1) 請求の範囲を別紙のように補正する。

方
審
査

請 求 の 範 囲

1. 少なくとも1つの物質成分から成る化学物質を、複数のハウジング部分と、少なくとも1つのスクリューと、ノズル機構及び少なくとも1つの切断装置とを有し、配量のための少なくとも1つの開口(13、14)を有する押出機(9)によって均質化、混合及び又は顆粒化のための装置であって、その際両開口はそれぞれ少なくとも1つのハウジング部分によって互いに分離されており、そしてその際押出機ハウジング部分及び又はノズル部分(12、43、25、36、44、47)は熱的に遮断されておりかつ互いに別々に加熱可能及び又は冷却可能である前記装置において、

ノズル機構(15、86)は、孔(35、75)中に配設されている複数のノズル板(29、76)を有し、その際個々の孔(35、75)は、押出機軸線(86)に対して同心の少なくとも1つの円(28、28'、28'')上に設けられており、そして好ましくは、外方のノズル円(28)の直径(96)は、最後のハウジング部分(43)の自由横断面(48)の直径(97)よりも大きいことを特徴とする前記装置。

2. 押出機スクリュー(45、46)が、押出機ハウジング部分(12、43)に相応して熱的に遮断されている、請求項1に記載の装置。

3. 押出機(9)の少なくとも1つのハウジング部分(12、43)が真空化可能である、請求項1又は2に記載の装置。

4. ノズル機構(15、86)が、孔(35、75)中に配設されている複数のノズル(29、76)を有し、その際個々の孔(35、75)は押出機軸線(86)に対して同心の少なくとも1つの円(28、28'、28'')上に設けられており、そして好ましくは外方のノズル円(28)の直径(96)は、最後のハウジング部分(43)の自由横断面(48)の直径よりも大きい、請求項1から3までのうちのいずれか一つに記載の装置。

5. ノズル(29、76)の内面(38)が実質的に漏斗状かつ外面(37)が実質的に円筒状である請求項1から4までのうちのいずれか一つに記載の装置。

6. ノズル機構(15、86)が、ノズル(29、76)の加熱手段及び又は冷却手段を有しそして押出機軸線(86)のまわりで同心円(28、28'、28'')上に配設されているノズル(29、76)の両側に、加熱/冷却媒体を案内するダクト(30、71)が設けられておりかつ少なくとも1つの循環路(88、89、90、91、92、93)を形成するために相応して結合されている、請求項1から5までのうちのいずれか一つに記載の装置。

7. ノズル機構(15、86)が、最後の押出機ハウジング部分(43)から熱的に遮断されており、この熱的絶縁が、最後のハウジング部分(43)に対して設けられており及び又はノズル機構(15、86)が2つの熱的に互いに絶縁されたノズル板(61、62)を有しており、両ノズル板が別個に加熱可能及び又は冷却可能である請求項1から6までのうちのいずれか一つに記載の装置。

8. ノズル機構(15、86)が、周囲領域(94)にのみ、押出機軸線(87)に対して同心円(28、28'、28'')上に配設されているノズル(29、76)を有し、その際ノズル機構(15、86)の中央領域(95)には押出機(9)に向けられた堰止体(53)が設けられており、そして好ましくは堰止体(53)が、ノズル機構(15、86)によって熱的に遮断されており、及び又は好ましくは押出機出口(43)とノズル機構(15、86)との間に中間部材(47)が配設されており、その自由横断面(49)は、先ず減少し、それから再びノズル機構(15、86)の大きな自由横断面(50)まで増大し、その結果殆ど2つの漏斗状の領域(51、52)が得られ、その際ノズル機構(15、86)に面した領域(52)に堰止体(53)が設けられており、そして堰止体(53)が中間部材(47)の最も狭い開口(54)と共に押出材料用のリング状の貫通開口(55)を形成する、請求項1から7までのうちのいずれか一つに記載の装置。

9. 切断装置(16)が、カッタヘッド(79)と、カッタ刃(81)を備えた少なくとも1つのカッタホルダ(80)とを有し、その際カッタ刃(81)を備えた個々のカッタホルダ(80)がカッタヘッド(79)の周囲に配設されており、かつカッタヘッド(79)の半径(82)の方向に又はカッタヘッド(79)の半径(82)に対して所定の角度(99)で外方に放射状に向いている、請求項1から8までのうちのいずれか一つに記載の装置。

10. 切断装置(16)のカッタホルダ(80)及び又はカッタ刃(81)が、加熱手段及び又は冷却手段を有する、請求項1から9までのうちのいずれか一つに記載の装置。